



落橋防止対策が貧弱で被害が出ている。軟弱地盤のため液状化、海岸地滑りなどが多く発生しているため、水道、下水道などの被害は大きいと推測される。河川施設、港湾施設は上空から見る限り大きな被害は確認できなかった。

当面、仮設住宅の提供、建築物の緊急危険度判定の技術協力が課題となるが、被害の状況によってはインフラ施設の復旧も課題であり、長期的には都市の再建、既存のインフラ・建築物の耐震化が大きな課題となる。

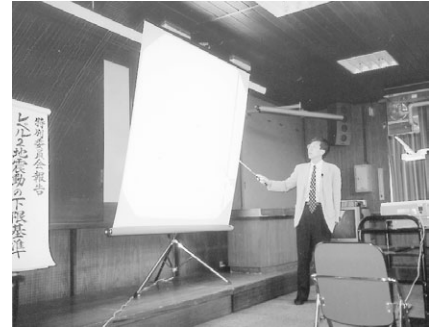
(国土庁防災局 岡山和生)

「レベル2 設計地震動：現状と展望」開催

本年7月8日、土木学会・地震

工学委員会・レベル2地震動研究小委員会の主催によるシンポジウム「レベル2 設計地震動：現状と展望」が同学会図書館講堂にて開催された土木学会の第2次提言(土木学会耐震基準等に関する提言集, 1996)では、「地域ごとに脅威となる活断層を同定するとともに、その震源メカニズムを想定することにより設計用入力地震動(レベル2地震動)を定めることを基本とする」となっている。しかし、実際にレベル2地震動を設定する立場の実務者からは、これらの提言だけでは、レベル2の定義や意味合いが曖昧で困るとの指摘が少なくなかった。

レベル2地震動の概念や評価方法を一層明確化するために、第3次提言を最終目標とする土木構造物の耐震設計法特別委員会作業グループ(WG1)(委員長:大町達夫)と調査研究を主眼としたレベル2地震動研究小委員会(委員長:大町達夫)が設置され、両委員会が協力して、調査検討を行ってきた。その検討結果の報告および一般発表、特別講演、パネルディスカッションが午前9:30から午後5:00まで、6時間半にわた



って行われ、参加者は定員を上回る125名に達し盛況であった。

なお、シンポジウムを通じて明らかになった残された課題は、今後、当委員会で検討を続ける予定である。

(日本工営(株)中央研究所 大角恒雄)

情報欄

第1回地球環境技術賞授与される地球環境委員会は、第7回地球環境シンポジウムにおける技術展示の内から鹿島建設、キヤノン、荏原製作所の各団体に、第1回地球環境技術賞を授与した。

(詳細: <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsce2/committee/global/index.html>)

「見て・聞いて・土木の動き」投稿募集!

1. 構成

- ・報文欄と情報欄の二本立て

1.1 報文欄

- ・報文欄は400~800文字程度(写真等1枚程度を含む)
- ・土木の動き(例:プロジェクト報告,委員会関連報告,会議報告,事故・災害,市民参加の見学会,かつての話題のフォロー等)を伝える話題を紹介
- ・特に、速報版的なニュース性のある話題,個人あるいは各地域特有の目撃談・耳寄りな情報,および会員にぜひ知らせたい有用な話題等を歓迎

1.2 情報欄

- ・情報欄は20~50文字程度(ホームページのURLを付記)
- ・委員会活動状況,支部活動状況等に関する情報の紹介

で、原則として、その詳細が委員会、支部等のホームページに掲載されているもの

例: シンポジウム開催される 委員会
詳細: abc@def.or.jp

2. 投稿要領

- ・原稿は、電子情報で土木学会に送付(jsce-edi@civil.or.jp)
- ・文章は、テキストファイル(.txt)で送付
- ・写真は、JPEGファイル(.jpg)かGIFファイル(.gif)で送付
- ・N月号掲載の記事,情報の締切は,N-2月の20日(例:7月号(6月25日発行)掲載は5月20日)
- ・軽微な修正は,学会誌編集委員会の責任で実施